



「金蘭千里学園の 伝統と革新」

尚友会会長

岸 本 大 三 郎

母校は二〇〇五年に金蘭会学園から分離独立して「学校法人金蘭千里学園」となりましたが、同窓会も同様に分離独立し「尚友会」として活動を始めました。

学園は五十年前の二〇一四年から、座学と実体験を繋げる教育を進化させるため「五十年改革」をスタートしています。これまで五十年間にわたり育んできた伝統を継承しながら、先の五十年間を見据えて革新を断行しました。少数精鋭による難関大学のすば抜けた合格率と六年間の偏差値向上が群を抜いていることで注目されていましたが、本学園の理念、教育システムや学園生活の実態は余り知られていませんでした。広報の革新、受験機会の増加を図った新制度、多彩な部活動の大幅拡大などによって受験生の増加と学生の自主性を伸ばす教育において大きな成果が上がっています。

同窓会の立場で学園行事を拝見することがありますが五十年前と比べ生徒の皆さんの表情が変わってきているように感じています。人間教育の幅が広がったことによって学園生活に大きな変化が起きているのかもしれない。これまで金蘭千里が優秀な人材を輩出し続けてきたのは歴代の校長先生や恩師の皆様が生徒の心を耕し、体を磨きあげて頂いたお陰と深く感謝しています。先の五十年間においても先生方の情熱と革新の実践によって新たな校風が築きあげられていくことを大いに期待しています。

「ホームカミングデイ」は例年のように六月十六日(土)に開催されますが、辻本先生のお話、新設された部活動の紹介や在校生の皆さんとの交流の場も企画しています。合唱部や吹奏楽部による演奏も準備して皆さんをお待ちしています。金蘭千里学園の革新と成長がどのような進んでいるのか、皆さんの目と耳で確かめて頂ければ幸いです。



「感謝とお礼」

金蘭千里学園 理事長・学園長

辻 本 賢

今年の桜は、入学式に間に合わせる気などさらになく、見事に葉桜になりました。

平素は、尚友会のみならず、法人の役員、学校医、キャリア教育の講師「Home Coming Day」など直接的なサポートのみならず、新制服のスカートに注意を払って、後輩を車中で確認したときの懐かしさや励まし、さらには、卒業生同士の情報を校長室にお寄せいただくなど、みなさまが現役の生徒と共に、縦糸、横糸となり、金蘭千里を織り上げていただいていることに、心強く嬉しく感謝に堪えません。

さて、わたくしは、昭和四十年(一九六五)、金蘭千里高等・中学校の創立時にお世話になって以来五十三年、この三月、校長を退任し、教員生活を卒業しました。政治経済の教員として、校長として、それぞれの仕事に真摯に取り組み充実した日々でした。教頭の時に温めていて校長になり、即実施したものとしては、海外研修、ファミリー・コンサートなどがあります。金蘭会学園理事、校長として、特に、現校舎の建設、金蘭会学園から法人分離して金蘭千里学園の創設はよくぞできたものと感慨深いものがあります。但し、「金蘭千里小学校(仮称)設立趣意書」は提出されることもなく、幻の書類となりました。たいへん幸せで誇らしいことに、今年も、現役の校長として、お正月に、一期生(来年は古希)の新年会と何期生から始まったのか成人同窓会(今年は四十九期生)に出席しています。

このような私のキャリアーは、偏にみなさまのご理解とご支援のお陰であります。みなさんには素直になれます。有難うございました。

今年度から、校長は大中 章(十三期生)教頭が、教頭は中村聡太企画室長がそれぞれ昇任しました。わたくし同様に支えてくださるようになし、お願いいたします。わたくしは、理事長職を継続し、新たに学園長に就任しました。わたくしは、みなさまに話し言葉でお礼を申し上げたいと思っています。是非とも、理事長室(旧校長室)に顔を見せに来て下さい。お待ちしております。

校長就任のご挨拶

本年四月に校長職を拝命しました、大中章と申します。辻本理事長先生からバトンを受けるということで、その重責に身が引き締まる思いが致します。未熟者ではございますが、本校の発展のために微力を尽くす所存でございますので、どうぞご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

さて、尚友会の皆様には、日頃より本校のためにお力添えをいただき、有難く厚く御礼申し上げます。私自身、金蘭千里高等学校第十三期の卒業生です。毎朝の二十分テスト、自分達で張ったテントで寝泊りをするキャンプ、北摂の美しい自然の中を歩く徒歩訓練など、私にとって懐かしい行事は現在も継承されています。大学卒業後に本校へ舞い戻り、早三十四年目を迎えますが、その間、独自の教育を行う古き良き金蘭千里から、イギリス海外研修や外務省現役外交官講演等の導入、そして創立四十周年を期しての新校舎設立、アメリカ総領事館講演、ファミリー・コンサート、校外学習など諸行事の導入、さらには創立五十周年改革により新制服の制定、クラブの大幅増設、文化祭・体育祭の充実(生徒主体へ。文化講演会も実施)、キャンプ・自然研修の充実(高二は北海道自然研修)、学習記録ノートの導入など大きな改革を行いました。その結果、生徒の活躍の場が増え、学校がより活性化したように感じています。

学力の三要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については、本校独自の二十分テストや、英作文・小論文・面接等に対する個別指導、中学生の国語の授業に導入された「表現」の時間、さらには演劇ワークショップや各種プレゼンテーションの実施、諸行事の充実を通して、確実に対応を致します。そして、「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「柔軟性」の三つの要素を兼ね備えた人物の育成を目指し、本校教育のさらなる進化・深化を図って参ります。簡単ではございますが、以上をもってご挨拶とさせていただきます。



プロフィール

- 名 前: 大中 章
(おなか あきら)
- 生年月日: 1961年5月26日(56歳)
- 担当教科: 数学
1985年から、本校数学教諭として勤め、2008年から、本校教頭として辻本校長を支えた。
2018年4月より、校長に就任。
- 座右の銘: 平凡な幸せを大切に
- 出身校: 京都大学卒業
金蘭千里13期卒業生
- 家族構成: 妻、長女、次女
- 血液型: B型